教養教育科目 講義科目

科目名: 教養としての音楽史入門							科目コード	GA27		
						単位	2			
科目主査:	大瀧	恵	担当講師:	大瀧恵、	中村	真由子		配当年次	1	
授業の目的と概要 グループワーク: 口 あり 図 なし 個人ワーク:								: ☑ あり	□ なし	
音楽は、文化という大きな営みの一部として存在する。音楽が常に特定の時代や地域の文化と不可分の関係で存在していることから、西洋音楽史を学ぶときには、社会・経済・政治・文化・哲学など、様々な歴史に照らしつつ学習することが重要である。本科目では、テキストの各章の始めに設けられた音楽史と世界史を対照させた年表、時代背景、音楽史概説を基に、形式・様式と技法・メディア(演奏媒体)・ジャンル・地域(楽派)・作曲家論・記譜法といった様々な観点から音楽史を学び、さらに、付録の音源を活用して、音楽に親しんでいく。意外にも我々が生きる現代社会において、西洋音楽が身近なものであることに気づくであろう。										
履修の前提となる科目		□あり □なし]あり 図なし 科目名:							
履修の前提とな その他特記		初学者向けのスクーリングですが、事前学習は重要です。テキストを熟読し、どこに何が記述されているかを整理しておきましょう。またテキストの付属CDを事前に聴き、好みの楽曲に対する感想などを準備して授業に臨んでください。								
テキスト	『大人の音楽史入門』長沼 由美 他, ヤマハミュージックメディア, 最新版									
この科目の 到達目標	①音楽史の基本的な流れを押さえ、各々の時代にどのような音楽家および作曲家が活躍し、いかなる作品が作曲されたのか理解できる。 ②各作曲家の作品が創られた時代背景を踏まえた上で、テキスト付属のCDを積極的に活用しながら、曲ごとの音楽的特徴と作曲家が活躍した時代の音楽様式を理解することができる。									
成績評価 の 方 法	出席状況・課題への取り組み・最終試験を評価対象とします。 休み時間後の遅刻は減点の対象とします。 ※スクーリング全日の出席、課題、最終試験の提出(白紙提出不可)をもって、採点対象とする。									
事後学習	スクーリングで得た知識や気づきをもとに、好きな作品・作曲家・演奏家を増やすことができるよう鑑賞を重ねてください。好き な作曲家・作品・演奏家に出会うことで、音楽史をより詳しく知りたいと思うようになり、その知識を活かせる場面もより増える でしょう。									
事後学習の 参考文献	『西洋音楽史100エピソード』,久保田 慶一,教育芸術社,2012年 『CD&DVD51で語る西洋音楽史』,岡田 暁生,新書館,2008年									
スクーリング受講時に用意するもの ☑テキスト ☑筆記用具 ☑カメラ・マイクは必須となります。										